

「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPI」について

株式会社新生銀行（以下、「当行」）は、お客さまの「最善の利益」を最優先とした業務運営を行う指針として、「顧客本位の業務運営に関する取組方針」（以下、「取組方針」）およびこの方針を確実に実現するための「アクションプラン」を策定し、お客さまの最善の利益の実現に向けた金融商品・サービスの拡充や投資判断に必要な情報提供、選定された金融商品・サービスについて分かりやすい説明ができるように努めるなど、具体的取組みを実践し、その取組み状況を公表してまいりました。

顧客本位の業務運営に関する取組方針とアクションプランは[こちら](#)

2018年6月に金融庁から「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPIについて」として、お客さまが良質な金融事業者を選ぶ上で有益とされる3つの指標（以下、「比較可能な共通KPI」）が公表されたことから、当行における「比較可能な共通KPI」を公表いたします。

「比較可能な共通KPI」を通じて、「お客さま本位の業務運営の姿勢を貫き、お客さまの大切な資産形成のお役に立つ」銀行としてお客さまからお選びいただくために、これからもお客さまにふさわしい金融商品・サービスの提供に努めてまいります。

「比較可能な共通KPI」の内容

①投資信託の運用損益別顧客比率

- ・投資信託を保有しているお客さまについて、基準日時点の保有投資信託に係る購入時以降の累積の運用損益（手数料控除後）を算出し、運用損益別にお客さまの比率を示した指標です。
- ・個々のお客さまが保有している投資信託について、購入時以降どれくらいのリターンが生じているかを確認できます。

②投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン

- ・設定後5年以上の投資信託の預り残高上位20銘柄について、銘柄毎及び預り残高加重平均のコストとリターンの関係を示した指標です。
- ・中長期的にどのようなリターン実績を持つ商品をお客さまに多く提供してきたかを確認できます。

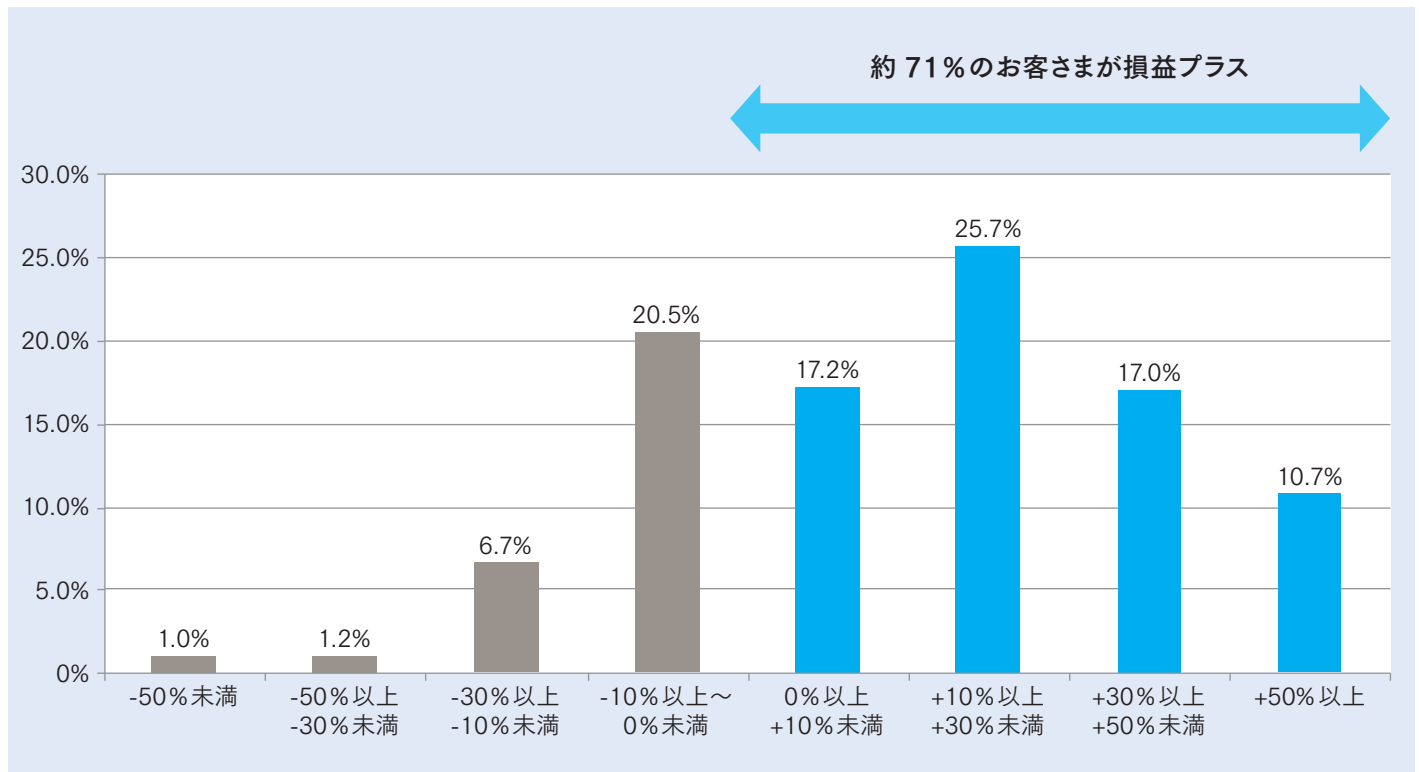
③投資信託預り残高上位20銘柄のリスク・リターン

- ・設定後5年以上の投資信託の預り残高上位20銘柄について、銘柄毎及び預り残高加重平均のリスクとリターンの関係を示した指標です。
- ・中長期的にどのようなリターン実績を持つ商品をお客さまに多く提供してきたかを確認できます。

①投資信託の運用損益別顧客比率(注1)(注2)

2018年3月末基準

お客様の資産状況、取引経験、金融知識および運用の目的・ニーズを把握し、お客様にふさわしい金融商品・サービスをご提供するとともに、適切に販売・アフターフォロー等を行った結果、運用損益率がプラスとなったお客様の比率は、70.7%となりました。



(注1) 小数点第2位以下は四捨五入

(注2) 外貨建て投資信託の評価金額は2018年3月末の前営業日の基準価額と同日の当行所定の為替レートを用いて算出

2018年6月29日に金融庁から公表された「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPIを用いた分析」<対象:主要行等9行、地域銀行20行>の「運用損益率0以上の顧客割合別の販売会社数」のグラフにおいて、「70%以上80%未満」(注3)の区分に属しました。

当該指標はその時々々のマーケット環境の影響は受けるものの、今後もお客様のニーズやご意向を踏まえ、長期投資・分散投資など、それぞれのお客様にふさわしい金融商品・サービスの提供に努めてまいります。

(注3) 出典:金融庁「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPIを用いた分析」<対象:主要行等9行、地域銀行20行>
リンクは[こちら](#)から(金融庁のウェブサイトへ移動します。)

なお、お客さまご自身の現在の運用損益については、新生パワーダイレクトにログイン後、投資信託のページにある運用損益照会でご確認いただくことができます。

パソコンからの手順は[こちら](#) スマートフォンからの手順は[こちら](#)

QRコード



パソコンからの手順



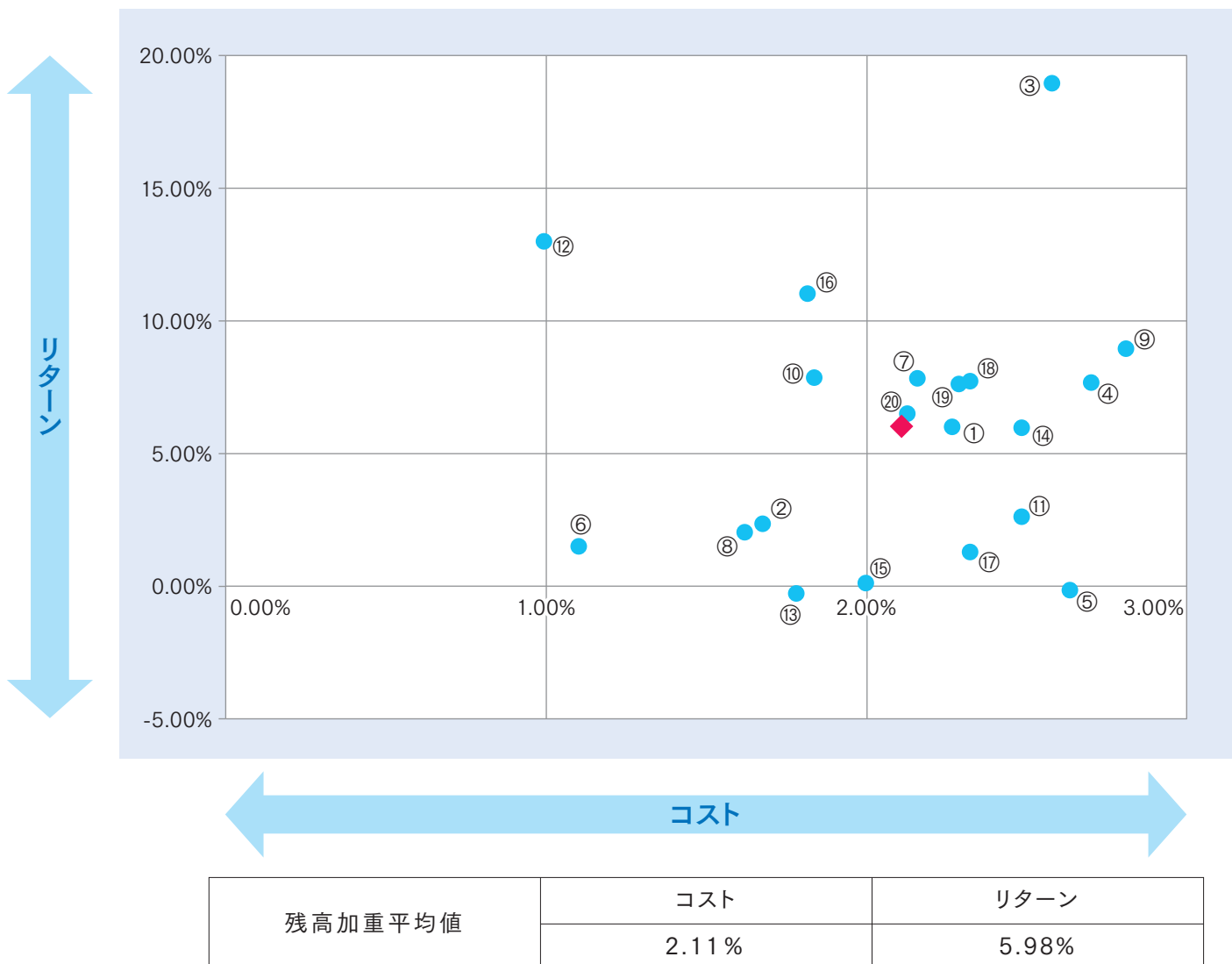
スマートフォンからの手順

②投資信託の預り残高上位 20 銘柄のコスト・リターン(注4)

2018年3月末基準

残高上位 20 銘柄の平均コストは 2.11%、平均リターンは 5.98%となりました。

(図中の番号は預り残高上位 20 銘柄の順位、赤印は残高加重平均値)



(出所) 当行が Bloomberg のデータをもとに作成

(注4) コスト：当行における販売手数料率の上限値 / 5 + 信託報酬率

リターン：過去5年間のトータルリターン(年率換算)

投資信託においてお客さまが負担するコスト低減の取り組みとして、当行では、国内籍公募株式投資信託を購入する際、「NISA口座」を選択してご希望の金額を一度にお申し込みいただくと、一度に申し込まれた金額に対する申込手数料が無料になるプログラム「NISA プラス」をご用意しております。また、2017年度には、これまでインターネット専用で提供していたノーロード投資信託につきまして、店頭窓口やコールセンターでの取り扱いを開始しております。

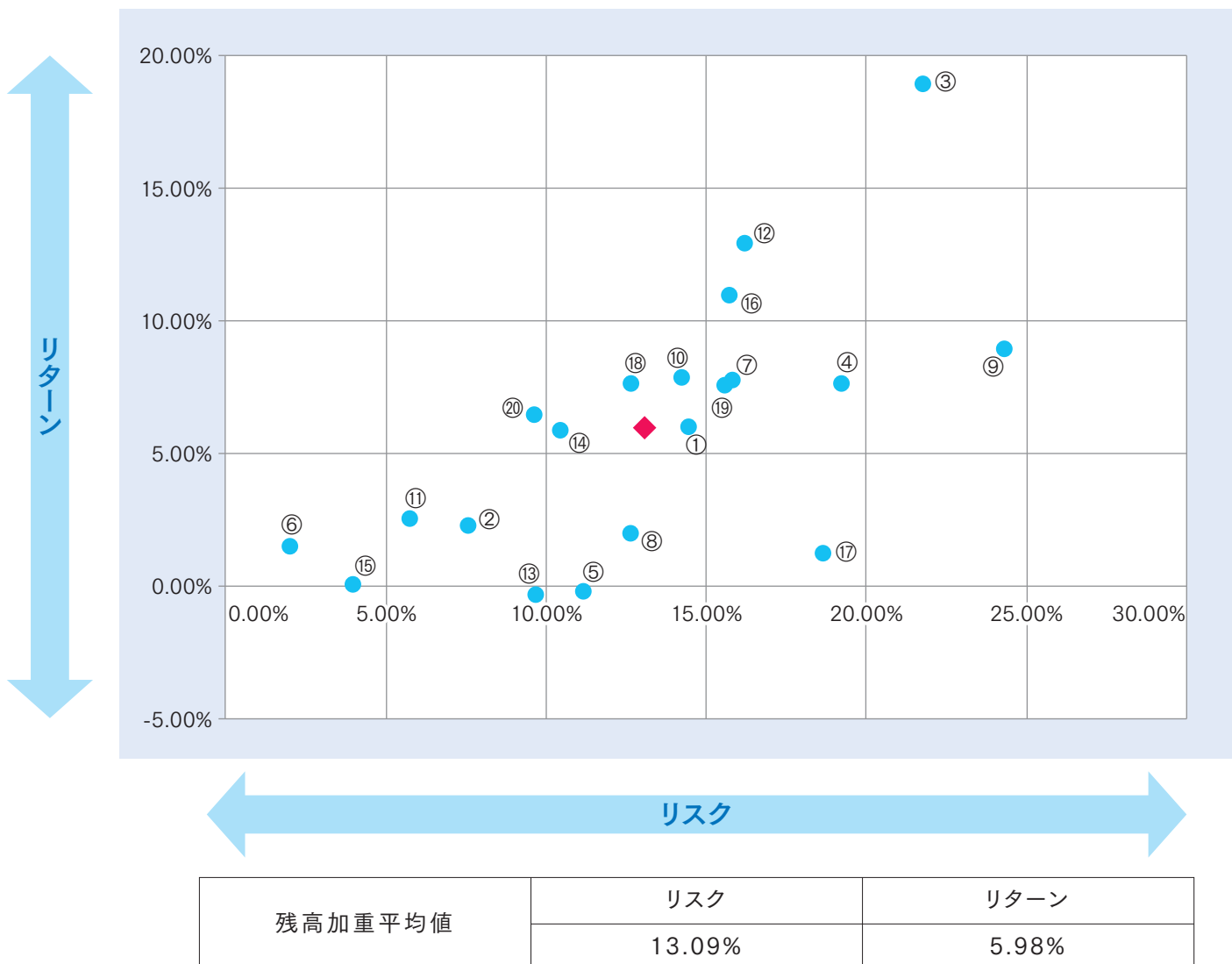
「NISA プラス」の詳細は [こちら](#) から。また店頭「NISA プラス」の説明書をご用意しています。

③投資信託の預り残高上位 20 銘柄のリスク・リターン(注5)

2018年3月末基準

残高上位 20 銘柄の平均リスクは 13.09%、平均リターンは 5.98%となりました。

(番号は預り残高上位 20 銘柄の順位、赤印は残高加重平均値)



残高加重平均値	リスク	リターン
	13.09%	5.98%

(出所) 当行が Bloomberg のデータをもとに作成

(注5) リスク：過去 5 年間の月次リターンの標準偏差値 (年率換算)

リターン：過去 5 年間のトータルリターン (年率換算)

今後も、お客さまの最善の利益の実現に向けて、お客さまのニーズに応じた金融商品・サービスの拡充に努めてまいります。

投資信託の預り残高上位20銘柄は以下のとおりです。

2018年3月末基準

順位	ファンド名	ファンド分類	トータルリターン(5年)	コスト	リスク(5年)
1	ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	REIT型	6.01%	2.27%	14.45%
2	グローバル・ソブリン・オープン(毎月決算型)	債券型	2.31%	1.67%	7.59%
3	新生・UTIインドファンド	国際株式型	18.94%	2.58%	21.78%
4	JPM・BRICS5・ファンド(愛称:ブリックス・ファイブ)	国際株式型	7.67%	2.70%	19.21%
5	エマージング・カレンシー・債券ファンド(毎月分配型)	債券型	-0.15%	2.64%	11.16%
6	東京海上・円建て投資適格債券ファンド(毎月決算型) (愛称:円債くん)	債券型	1.50%	1.10%	1.99%
7	フィデリティ・USリート・ファンドB(為替ヘッジなし)	REIT型	7.79%	2.16%	15.80%
8	DIAM J-REITオープン(毎月決算コース) (愛称:オーナーズ・インカム)	REIT型	1.99%	1.62%	12.64%
9	HSBCインドオープン	国際株式型	8.94%	2.81%	24.29%
10	グローバル・ハイインカム・ストック・ファンド	国際株式型	7.89%	1.84%	14.21%
11	高利回り社債オープン・為替ヘッジ(毎月分配型)	債券型	2.58%	2.48%	5.72%
12	インデックスファンド225	国内株式型	12.96%	0.99%	16.18%
13	LM・オーストラリア毎月分配型ファンド	債券型	-0.30%	1.78%	9.66%
14	高利回り社債オープン(毎月分配型)	債券型	5.93%	2.48%	10.43%
15	BAMワールド・ボンド&カレンシー・ファンド(毎月決算型) (愛称:ウィンドミル)	債券型	0.12%	2.00%	3.98%
16	フィデリティ・日本配当成長株・ファンド(分配重視型)	国内株式型	11.03%	1.81%	15.74%
17	LM・ブラジル国債ファンド(毎月分配型)	債券型	1.26%	2.32%	18.64%
18	世界好配当インフラ株ファンド(毎月分配型)	国際株式型	7.68%	2.32%	12.67%
19	ダイワ・US-REIT・オープン(毎月決算型)Bコース (為替ヘッジなし)	REIT型	7.59%	2.29%	15.55%
20	エマージング・ソブリン・オープン(毎月決算型)	債券型	6.50%	2.13%	9.63%

(出所) 当行がBloombergのデータをもとに作成

